

学生まちづくりコンペ

若い感性で地域活性化

八戸

八戸市は25日、同市の「はっち」で「学生まちづくりコンペティション」を開催し、市内の学生グループが地域活性化に関わる活動の成果を発表した。約50人の市民が足を運び、若い感性と行動力に感心しながら発表に耳を傾けた。

市は2011年度から、学生の積極的なまちづくり活動を支援しようと、助成金制度を設けている。本年度は4団体が助成金を受け、活動の成果を発表した。

4団体 活動成果を発表

審査の結果、最高賞の市長賞に輝いたのは、八戸工業大建築デザイン研究部。小学校と連携し、地域の特徴を盛り込んだかるたやマップを作製し、「児童が楽しみながら地元の歴史や文化に興味を持ち、学生自身も地域に関する知識が深まった」などと、成果を披露した。

このほか、八戸学院短大幼児保育学科の池田ゼミが、無料通信アプリLINE(ライン)用のご当地スタンプを開発。同学科の差波ゼミは、子どもたちが自由に遊べる

「ブレイパーク」を八戸公園などで展開し、八戸の卵プロジェクト」に取り組んだ。高専科学部は、実験で子どもに科学の楽しさを知

(田村祐子)



学生がまちづくり活動の成果を発表したコンペティション